

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.36 2016年12月16日(金)

院内集会～財務省前行動 高校生が大活躍



12月9日の院内集会には議員ご本人32名参加してくださいました(35号掲載)。全国のみなさんが、粘り強く国会議員にアプローチし、私学の学費問題の実情を伝えてきたこれまでの運動の成果です。会期中のため、残念ながらご公務で退席された赤松広隆議員(衆/民)、山本博司議員(参/公)、吉川元議員(衆/社)、大野敬太郎議員(衆/自)、根本幸典議員(衆/自)、瀬戸隆一(衆/自)、玉城デニー議員(衆/由)、黒岩宇洋議員(衆/民)、田中和徳議員(衆/自)以外の23名の国会議員のみなさんが、主催者あいさつと高校生代表あいさつを承けてごあいさつくださいました。

「財源問題はあるが、教育費の無償をがんばる」という熊田裕通議員(衆/自)の発言を皮切りに、「米沢藩上杉鷹山の『為せば成る』の精神で無償化実現に向けがんばる」近藤洋介議員(衆/民)、「高等教育の無償化は日本の未来を左右する」真島省三議員(衆/共)、「OECD最低水準の教育費GDP比3.5%を変える」鈴木克昌(衆/民)、「生保世帯にも負担が残る制度で申し訳ない」大西健介議員(衆/民)、「宮城でも私学フェスティバルで高校生が活躍」郡和子議員(衆/民)、「京都フェスでは高校生が国会議員と討論会を開催。頼もしい」穀田恵二議員(衆/共)、「経済的な理由で学校に通えない生徒が出ないように頑張りたい」伊藤孝忠議員(参/民)、「教育機会均等は当然保障されるべき権利」神田憲次議員(衆/自)、「生まれながらにして抱えさせられた格差をなんとかすることが必要」升田世喜男議員(衆/民)、「署名をありがとう。この運動があるから今の自分がある」今枝宗一郎議員(衆/自)、「お金のあふなしで教育に差が出るのは憲法違反」斎藤和子議員(衆/共)、「政治家になれとは言わないが、高校生の参加は大きな力」清水忠史議員(衆/共)、「経済的理由での教育格差を無くす事が重要」重徳和彦議員(衆/民)、「予算のことばかりでなく、成長が必要」中山泰秀議員(衆/自)、「子ども国債を発行してでも、未来の立派な納税者を育てよう」玉木雄一郎議員(衆/民)、「はじめての国会質問で就学支援金の手続き問題を取り上げた」大平喜信議員(衆/共)、「大型開発の民間ビルに国の金を出すなら教育へだすべき」本村伸子議員(衆/共)、「自分の私学の経営者。教育国債を考える。手法は違ってても超党派で」左藤章議員(衆/自)、「格差と貧困を無くすために文教科学委員会に取り上げていく」木戸口英司議員(参/由)、「みなさんといっしょに教育費無償化に向けてがんばる」畑野君枝議員(衆/共)、「集会を開かせ、署名を集めさせ申し訳ない。格差をなくしていきたい」近藤昭一議員(衆/民)、「財源の問題はあるが、教育に力を入れていきたい」岡田広議員(参/自) (以上ご到着・ごあいさつ順=写真上段左から：発言内容は大意)

会場中に共感が広がった 父母の発言

高校生の発言後、会場の父母からも発言がありました。最初に発言に立った福岡の父母は「子どもにここまで言わせてはいけない。」と涙ながらに述べた上で「中3の夏休み設備費分が用意できず私学を諦める子はまだいる。ボーナスの出ない家庭だってある」と私学の学費実態を訴えました。



福岡：古川さん

つづいて熊本から参加した父母は、熊本大分大地震の被災状況と関わらせ「娘の学校は中学が全壊し、プレハブ校舎での学校生活が1年づく。安全・安心に学べる事を願っています。」と私学の状況を語ってくださいました。



熊本：西さん

学費問題、高校生が改善を訴える



北星学園女子高校のみなさん

旭丘高校のみなさん

今回の高校生の参加は開会後の大東学園高校の他、北海道：北星学園女子高校の「授業料安定委員会」、神奈川：旭丘高校生徒会総務の方々でした。「高い授業料は家庭内、進路の問題となっている。経済的理由から70%が道外進学を諦めている」(北星学園女子高校「授業料安定委員会」)、「経済的な理由で苦しむ仲間を助ける事と同時に、学ぶ権利は平等なもので、経済的問題と関係なく誰もが学べるのが当然としていく運動にしたい。」(旭丘高校生徒会総務)と実態と私学助成運動の今後の展望にわたる発言でした。

教育予算増額を訴える財務省前行動

